

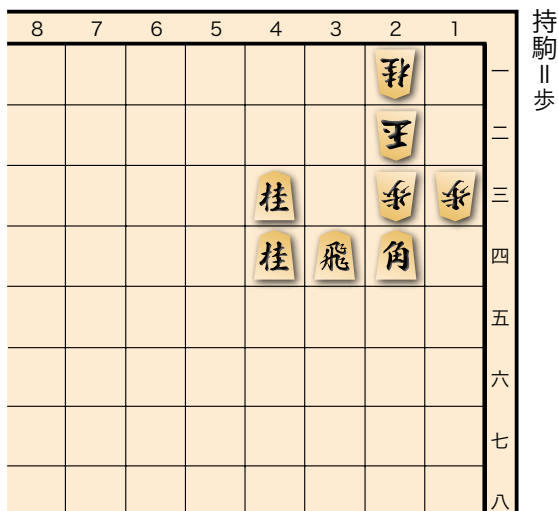
# 次の一手

## 答え合わせ

〈第13局〉

### 詰将棋 問題 7手詰 (10分で2級)

**ヒント** 打歩詰めに注意



〈監修〉中田功七段

### 詰将棋 答え

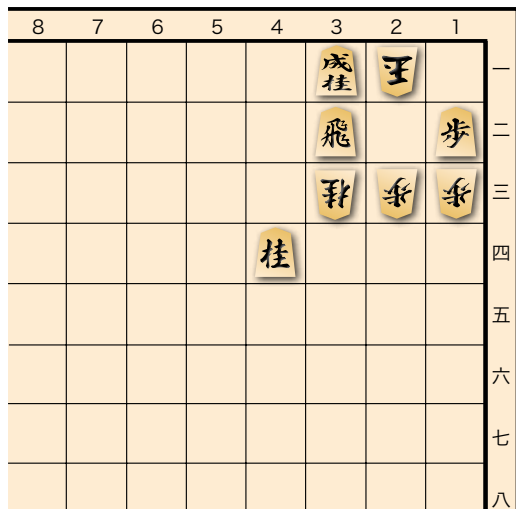
▲ 3 二飛成らず▽ 1 一玉▲ 3 三角成▽ 同桂  
▲ 1 二歩▽ 2 一玉▲ 3 一桂成までの 7 手詰め

中田 功 (なかた・いさお)

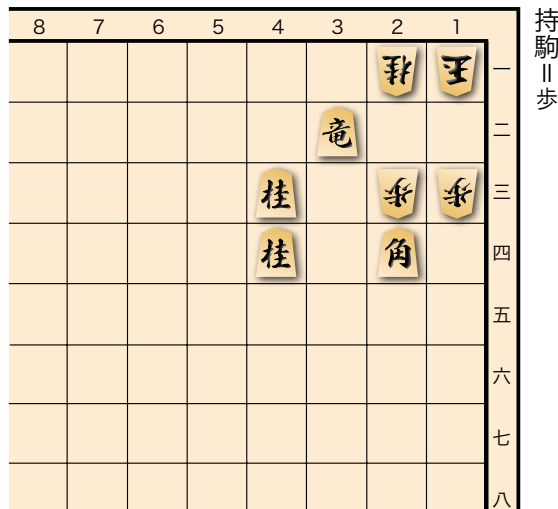
1967年7月27日生まれ。福岡市出身。  
第5回中学生名人戦優勝。80年、師匠(故)大山康晴15世名人門下として奨励会六級、83年初段、86年4月四段、90年3月五段、98年8月六段、2005年10月七段、11年現役勤続25年表彰。弟子に佐藤天彦名人。人生の指針となる言葉「一期一会」。



### 詰め上がり図



### 失敗図

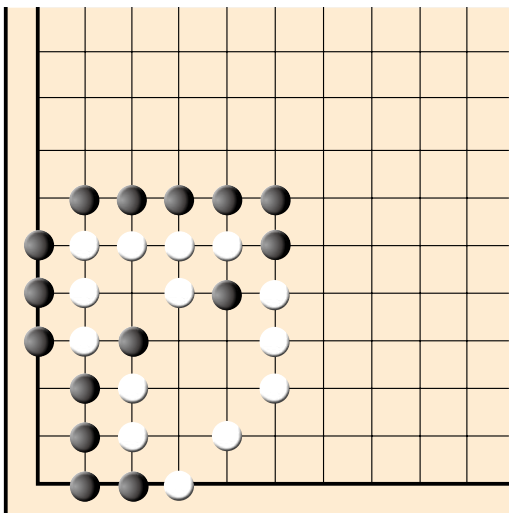


(解説) 初手▲ 3 二飛成とすると▽ 1 一玉となって▲ 1 二歩は打歩詰(禁じ手)なのでこれ以上手が出ない。

## 詰碁 問題 黒先（地中に手あり）（10分で初段）

### ヒント

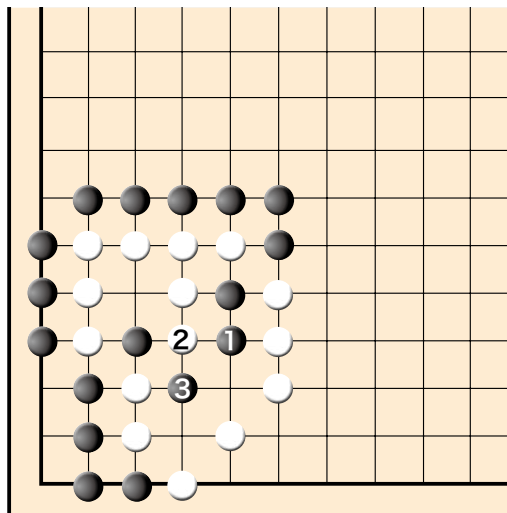
この白地には実は重大な欠陥があります。手にしてください。ダメヅマリにご注意を！



〈監修〉大淵盛人九段

## 詰碁 正解図

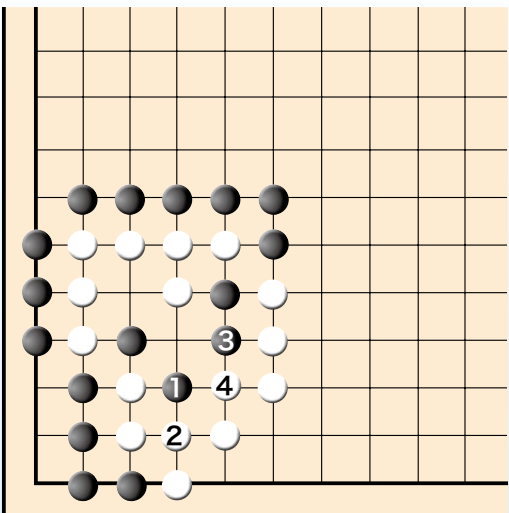
黒1にノビ、そして決め手の3



一見してただ取られの黒1の点は「最も打ちたくない」場所ですが、不思議にもこれが本筋の手順です。白2に黒3で、ぴったり両アタリ!黒大利を得ました。

## 詰碁 参考図

先にアタリを打つと…



黒1は「つい打ちたくなる」のですが白は当然2とツギ、ここで貴重なダメが詰まってしまうと、黒3に白4が成立して丸々取られ……げに恐ろしきは、ダメヅマリなのです。正解図の黒1を繰り返しイメージして、「一見して打ちたくなる本筋」を身につけましょう!!

## 大淵 盛人 (おおぶち・もりと)

1965年8月10日生まれ。福岡県柳川市出身。

中1で碁を覚え、1981年4月上京、大枝雄介八段(当時)に入門を許され約8年内弟子修行を経験する。83年入段、97年九段。棋士養成機関で師範を長年担当。日本棋院常務理事。門下生に内田修平七段、奥田あや三段他。

人生の指針となる言葉「サムエル・ウルマンの『青春』」。

